

## 10) 歯ブラシ以外に何か使っているかと満足感（自覚症状）

満足している者の方が補助的清掃用具を使っている割合が高く、不自由さを訴える者は補助的清掃用具を使用していない割合が高い。

男 性

(単位：%)

	デンタル フロス	歯間ブラシ	水流式 口腔洗浄器	電動 歯ブラシ	その他	使用して いない	無回答
満足している	18.7	21.5	2.8	8.8	1.6	57.4	0.0
やや不満	18.0	20.7	1.7	11.0	1.5	58.7	0.8
不自由	12.5	14.8	2.3	9.1	3.4	67.0	1.1
無回答	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	17.7	20.5	2.0	10.2	1.7	59.1	0.6

女 性

(単位：%)

	デンタル フロス	歯間ブラシ	水流式 口腔洗浄器	電動 歯ブラシ	その他	使用して いない	無回答
満足している	32.6	28.9	2.7	6.4	1.3	40.8	0.8
やや不満	27.1	28.9	3.2	7.2	2.8	46.3	1.0
不自由	29.8	27.2	6.6	8.6	2.0	45.7	0.7
無回答	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7
合計	28.7	28.7	3.4	7.1	2.3	44.9	1.0

全 体

(単位：%)

	デンタル フロス	歯間ブラシ	水流式 口腔洗浄器	電動 歯ブラシ	その他	使用して いない	無回答
満足している	27.1	26.0	2.7	7.3	1.4	47.5	0.5
やや不満	23.6	25.8	2.6	8.6	2.3	51.0	1.0
不自由	23.4	22.6	5.0	8.8	2.5	53.6	0.8
無回答	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3
合計	24.5	25.5	2.9	8.3	2.1	50.3	0.9

## 11) 定期的な歯科健診と満足感（自覚症状）

定期的な歯科健診を受けていない者より受けている者の方が、満足している者が多い。

男 性

(単位：%)

	受けている	受けていない	無回答
満足している	51.0	25.5	23.5
やや不満	36.9	30.0	33.1
不自由	29.5	25.0	45.5
無回答	0.0	100.0	0.0
合計	40.0	28.4	31.6

女 性

(単位：%)

	受けている	受けていない	無回答
満足している	54.9	25.5	19.6
やや不満	43.7	31.3	25.0
不自由	37.1	38.4	24.5
無回答	33.3	16.7	50.0
合計	45.8	30.5	23.7

全 体

(単位：%)

	受けている	受けていない	無回答
満足している	53.3	25.5	21.2
やや不満	41.1	30.8	28.1
不自由	34.3	33.5	32.2
無回答	28.6	28.6	42.9
合計	43.6	29.7	26.7

## 1 2) 全身の状態とむし歯の関連性

全身疾患を有する者のほうが、むし歯の罹患率が高い。

(例：男性の場合、糖尿病を有する者のむし歯ありは100%、むし歯なしは0%である)

### 男 性

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
むし歯あり	100.0	100.0	100.0	98.9	100.0	96.1	100.0
むし歯なし	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	3.9	0.0

### 女 性

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
むし歯あり	98.2	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6	99.0
むし歯なし	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	1.0

### 全 体

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
むし歯あり	99.1	100.0	100.0	99.4	100.0	97.0	99.4
むし歯なし	0.9	0.0	0.0	0.6	0.0	3.0	0.6

## 1 3) 全身の状態と歯周病の関連性

全身疾患を有しない者に対して、全身疾患を有する者の歯周病に罹っている割合は、男性が関節リウマチ、女性は骨粗しょう症が多く、男女共通しているのが糖尿病と関節リウマチが多い。

(例：男性の場合、糖尿病を有する者の歯周病ありは51%、歯周病なしは49%である)

### 男 性

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
歯周病あり	51.0	60.0	46.9	33.7	0.0	33.6	39.4
歯周病なし	49.0	40.0	53.1	66.3	100.0	66.4	60.6

### 女 性

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
歯周病あり	48.2	57.1	44.4	36.5	40.6	28.3	39.2
歯周病なし	51.8	42.9	55.6	63.5	59.4	71.7	60.8

### 全 体

(実数：%)

	糖尿病	間接 リウマチ	狭心症・ 心筋梗塞・ 脳梗塞	内臓型肥満	骨粗 しょう症	特になし	その他
歯周病あり	49.5	58.3	45.8	35.0	39.4	30.3	39.3
歯周病なし	50.5	41.7	54.2	65.0	60.6	69.7	60.7

## 1 4) 妊娠中と回答した者における歯科疾患有病率

女性で妊娠している人の中で、むし歯の罹患率が顕著に高い。

### 女 性

(実数：%)

	むし歯あり	むし歯なし	歯周病あり	歯周病なし
妊娠	92.3	7.7	19.2	80.8

# 参 考

## 数値等の算出法について

本調査の結果に示した主な数値等は次の方法により算出した。

### 1. う蝕有病者率

$$1) \text{ う蝕有病者率 (\%)} = \frac{\text{う蝕のある者の数}}{\text{被調査者数}} \times 100$$

(注) う蝕のある者の数：未処置歯、処置歯のいずれかを1本以上有する者の数  
被調査者数：調査を受けた者で、う蝕のない者、う蝕のある者、歯のない者の総数

### 2. 1人平均現在歯数

$$1) \text{ 1人平均現在歯数 (本)} = \frac{\text{現在歯数}}{\text{被調査者数}}$$

(注) 現在歯数：健全歯、未処置歯、処置歯数の総数  
被調査者数：前記1 1) に同じ

### 3. 1人平均う蝕経験歯数 (DMF)

$$1) \text{ DMF T (歯)} = \frac{\text{未処置歯} + \text{処置歯} + \text{喪失歯の総数}}{\text{被調査者数}}$$

(注) 被調査者数：前記1 1) に同じ

### 4. 喪失歯所有者率および1人平均喪失歯数

$$1) \text{ 喪失歯所有者率 (\%)} = \frac{\text{喪失歯のある者の数}}{\text{被調査者数}} \times 100$$

(注) 喪失歯のある者の数：喪失歯を1本以上有する者の数  
被調査者数：前記1 1) に同じ

$$2) \text{ 1人平均喪失歯数 (本)} = \frac{\text{喪失歯数}}{\text{被調査者数}}$$

(注) 喪失歯数：前項3 1) に同じ  
被調査者数：前記1 1) に同じ

### 5. 歯肉の有所見者率

$$1) \text{ 歯肉の有所見者率 (\%)} = \frac{\text{歯肉に所見のある者の数}}{\text{被調査者数}} \times 100$$

(注) 被調査者数：前記1 1) に同じ

# お わ り に

本県においては、県民歯科疾患実態調査として平成7年度から5年を日安に歯科健診とアンケート調査を実施、県民の歯科疾患の現状と生活習慣を把握し、今後の鳥取県民の歯科保健対策を推進し基礎資料としてきました。今回は、県民の歯と口腔の健康づくりに関する基本的施策を定め、これを総合的かつ計画的に推進することにより、歯科疾患の有病率の一層の低下を図り、県民の生涯にわたる健康の保持増進に寄与する事を目的として、平成25年12月に制定された「鳥取県歯と口腔の健康づくり推進条例」の施行以降、初の調査となります。

## 《調査結果から見えた事》

全体として調査結果は前回調査の年代別結果をスライドして反映する傾向にあります。今回の調査結果では前回の調査と同じく、着実な残存歯数の増加の一方で、高齢になるにつれてむし歯、歯周病を有する率の増加傾向が認められます。又、補綴(義歯装着)の状況においては、前回の調査までは増加していた補綴完了率が減少し未完了(要義歯部を放置)している率が急増しています。簡単に言うと、残存歯は増えているが、むし歯、歯周病も増えていて、歯抜けの部分も増加しているのです。この傾向は前回の調査結果においても認められ、増加する8020達成率ではありますが、今後もその実質的内容を把握し、問題に対してより早い年齢層で対応する必要性は調査を重ねるごとに増していると言えます。むし歯の未処置歯数においては20歳代～30歳代において増加する傾向にありました。これは現在欠落している高校卒業後の健診体制の不備を反映した結果と考えられ(生涯において途切れの無い健診体制)を構築する必要性を示唆しています。

## 《アンケート結果から見えた事》

かかりつけ歯科医を決めている人の割合は前回よりわずかに増加しています。その中でかかりつけ歯科医で定期的に歯科健診をしている人の割合は全ての年齢層において、前回調査では30%程度であったものが、60%程度に倍増しており、その必要性が周知されてきました。一方、高齢者歯科対策推進事業については、歯科訪問診療を知っている人が前回調査においても30%に満たなかったのですが、今回はさらに約20%へと落ち込む残念な結果となり啓発活動の必要性を認めます。喫煙率は全ての年齢層において前回調査と大きく変わらない結果となり、一見禁煙化が進む世相においても吸う人は吸うという結果となりました。予防に勝る治療はありません。男性81歳 女性87歳 という世界でも最高の平均寿命を持つ日本人ですが、日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる健康寿命は、男性71歳、女性74歳とされています。この健康寿命を延ばすために、ライフステージごとに問題提起されるこの県民歯科疾患実態調査の結果を活用してより早い段階での対策に役立てていきたいと考えております。

最後に、この調査を実施するにあたり多大なご支援、ご協力を頂きました関係者の方々に深い感謝とお礼を申し上げます。

編 集

一般社団法人鳥取県歯科医師会公衆衛生委員会